



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第 24 号

2005.12.1

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめてもっぱら「かりお」の名前をつかっています。

も く じ

お知らせ

- 『芸北 草地シンポジウム
-草地がつなぐ人・文化・いのち-』
を開催
- 高原の自然館 冬季閉館期に
- 第 4 回八幡湿原再生協議会を開催
- 『苅尾 第 14 号』を発行

読者サロン

- テーマトーク
「今シーズン、印象に残った花」

活動報告

- 冬鳥の観察会
- 木の実と冬芽の観察会
- 環境保全活動 -千町原の草刈り-

観察会案内

- アニマルトラッキング
- スノートレッキング

お し ら せ

『芸北 草地シンポジウム -草地がつなぐ人・文化・いのち-』を開催しました (2005.11.19)

11月19日(土) 13:00～芸北に残された草地の自然や保全の意義、活用の方法などを探るためのシンポジウムを開催しました。

県内外から85人が参加して行われたシンポジウムは、中越信和教授(広島大学)の基調講演からはじまり、上野吉雄氏による草原の鳥についての報告、高橋佳孝氏による「保全から利用への転換」に関する具体的な提案のほか、地元から宮本裕之氏、川内信忠氏による報告がありました。その後の座談会では5班に分かれて活発な議論が行われました。この報告は次号高原の自然史にて行う予定です。

【関連記事：中国新聞】

<http://www.chugoku-np.co.jp/News/Tn200511180067.html>

高原の自然館は冬季閉館期に入りました

(2005.11.25)

次回開館は2006年4月26日です。今シーズンも、本当にありがとうございました。なお、2006年1月29日にはアニマルトラッキングを、2月19日と3月12日にはスノートレッキングを計画しておりますので、ぜひご参加ください。

お知らせ

第4回八幡湿原再生協議会が開催されました (2005.11.26)

11月26日(土)13:00～「八幡湿原再生事業」
における検討協議会が開催されました。

【関連記事：中国新聞】

[http://www.chugoku-np.co.jp/News/
Tn200511280015.html](http://www.chugoku-np.co.jp/News/Tn200511280015.html)

注：「八幡湿原は国内の湿原分布の南限に位置し」ません。また、「かつての湿地の植生を促す。」は「かつての湿地植生の再生を促す。」ということだと思えます。(しらかわ)

『苜尾第14号』を発行

西中国山地自然史研究会の会報『苜尾』の第14号が発行されました。会員の皆様には郵送でお届けします。今号も会員の皆さんから見た「西中国山地の自然」を詰め込んでお届けします。

読者サロン

このコーナーではみなさんから頂いたお便りをご紹介します。今月はお便りが無かったので、自然館スタッフのコメントのみです。あらら。

テーマトーク

今回のテーマは、『今シーズン、印象に残った花』です。それでは、コメントを紹介します。

●柳崎の印象に残った花

今シーズン、印象に残った花は「アズキナシ」です。とにかく、今年はいろいろの木に花がたくさん咲いて、尚且つ白い花が多く、ずっ

と「今咲いている白い花はなんですか」の質問を受け続け、自分としてはホームページにも載せましたが睫毛がハタハタしてる印象がとても強烈でした。そして秋、これまた赤い実がたくさん稔って未だに遠目も見事な姿です。

●藤原の印象に残った花

印象に残っている花は、なんといってもカキツバタです。5年前、カキツバタの里に植えた花が見事に咲きそろった姿を見て、この高原の自然館、茶屋での皆さんそれぞれの活動を想って写真におさめました。次に白い花・・・美しく素朴に少しずつ時期をずらして咲く山の花々・・・見分けがつかず、悩んでしまいました。

●河野の印象に残った花

自分の中で今年イチバンの花は“ヤマボウシ”でした。多数ある白い花のなかでもユーモラスな名前・花の形で目を楽しませてくれました。そして赤い実は思ったよりも美味で、舌を楽しませてくれました。また来シーズン、どんな花に巡り合えるか楽しみに冬をすごします♪

●しらかわの印象に残った花

今年は、はじめてヤドリギの花を見ました。冬の姿はよく見るし、観察会でもいつも話をするのですが、今までは一度も花を見たことは無かったです。雪解けすぐに咲く上、小さいので木に登らないとよく見られないのです。それから、夏にはホザキヤドリギの花をみました。これは狙いを定めていたのですが、少し遅れてしまっていて終わりかけでした。それでもなんとか間に合って嬉しかったです。身近にあっても見たこと無い、見ていない花ってたくさんありますよね。

次号のテーマは『2006年はこれをやりたい！あれを見たい！』です。毎年、年度末がやってくると、無意識のうちに一年を振り返ったりしませんか？そしていつの間にか「来年はここに行こう」とか「あれをやろう」とか考えたりするものです。さて、2006年は何をしますか？

活動報告

冬鳥の観察会

開催日時：2005年11月6日（日）8：00
講師：上野吉雄

朝からの強い風雨のため、上野先生に「どうしましょうか？」と問い合わせたところ、「バンディングで捕獲した鳥を自然館で観察しよう」との提案。「こんな日に参加者はあるのだろうか？」というもう一つの心配もありましたが、2名の方がやってきて、室内での観察会をしました。カシラダカ3個体とノゴマ1個体を観察しました。ノゴマの真っ赤っかな喉が印象的でした。[しらかわ]



カシラダカの説明に思わず身を乗り出す。

木の実と冬芽の観察会

開催日時：2005年10月6日（日）10：30
講師：斎藤隆登

朝に引き続きの観察会ですが、やはり参加者は少なく、先生ひとり、参加者一人、事務局から一人の不思議な観察会でした。クロモジ、ツノハシバミ、ホオノキなど、見慣れた冬芽もありますが、一年経つと忘れていた物が多く、一つずつ説明を聞きながら「ああそうだった」の繰り返しでした。朝はあんなに激しかった雨も降らず、ゆっくり歩くことができました。[しらかわ]



もやの中を歩く二人+カメラマン1。



ノゴマのオス。大きい！



たいへん詳しく聞きました。

活動報告

環境保全活動 -千町原の草刈り-

開催日時：2005年11月20日（日）9：30

一番気がかりだった天気も、ここ数日では珍しい快晴となりました。もう逃げも隠れもできません。総勢66人のボランティアの人達も続々と集まってきます。予定の9:30からミーティングをして、10:00には作業を開始しました。今年は「カキツバタの里づくり」の会にご協力頂いて、現地にテントがあります。それだけでなんだか心強い気がするし、なによりもお昼のご馳走が目の前で出来ていくのがタノシミです。期待通り、お昼にはおいしい豚汁をいただきました。今年はもう一つ新しい試みがありました。それはチップperです。切り倒した木の小枝をどんどんチップにしていきます。この威力にはみんな関心するばかりです。作業は順調に進み、予定時刻の15:00にすべての作業を終え、仕上げをしました。地元の人も旅の人も、一緒にズンボや鯖、焼き鳥を焼いてつつきました。切り開かれた藪を見ながらみんなで食べるのは格別な気分でした。ハンノキはナメコのほだ木に、その他の木は薪に、チップや刈草はたい肥に利用されます。八幡高原ふるさと推進協議会との協同で開催した今回の活動では、様々な方や団体にお世話になりました。地元の坂井さん・高木さん・川内さんには食材を提供していただきました。荒木さん・越岡さんには記録係として駆け回っていただきました。ひろしま人と樹の会と新ダイワ工業株式会社さんにはチップperを提供していただきました。そしてなにより、ボランティアで参加した一人一人の力が積み重なって大きな力となりました。千町原はまだまだ広いですが「来年からも継続していきましょう」という川内会長の力強い言葉が印象的でした。来年も11月の第3週に開催を予定しています。ぜひ、また一緒に気持ちの良い汗を流しましょう。

[しらかわ]



受付では、役割毎に色分けされたテープを名札として付けた。



川内会長による注意事項など、気分は高まる。



いざ出発。



ススキを刈払い，集める。



チェーンソーによる伐採。



大活躍のチップー



運び出すのが大事なお仕事。



お昼は暖かい豚汁を食べた。



最後に記念撮影。こんなにきれいになりました。切り口がナメコ色のハンノキはナメコのほだ木になる。

観 察 会 案 内

アニマルトラッキング

開催日時：2006年1月29日（日）10：00
集合場所：高原の自然館
講師：畑瀬淳
準備：長靴、（あれば）かんじき、弁当、ルーペ、メモ、おやつ等
定員数：30名
参加料：300円（自然史研究会会員は100円）

自然館が冬の閉館になってからのオタノシミ！アニマルトラッキングです。雪が積もればノイバラや低木も足の下、どこまでもまっすぐに歩いていけます。今年も雪の上を歩きながら、動物の痕跡（トラック）を観察しましょう。

スノーシューのレンタルや民宿等、ご相談下さい。

スノートレッキング

開催日時：2006年2月19日（日）・3月12日（日）
9：30
集合場所：高原の自然館
準備：靴、（あれば）かんじき、弁当、ルーペ、メモ、おやつ等
参加料：300円（自然史研究会会員は100円）

雪の上を歩いてみませんか？雪の野原を歩いたことがありますか？真冬の八幡を見てくださいませんか？寒い中で飲むコーヒーはいかがですか？今回の観察会は「雪の上を歩いてみよう」という企画です。雪の原をみんなで歩けば、いろいろなものが見えてくるはずです。スノーシューで、クロスカントリースキーで、一緒に歩いてみませんか？

スノーシューのレンタルや民宿等、ご相談下さい。

－ インターネット版苧尾電波塔の紹介と購読移行のお願い－

苧尾電波塔はインターネットを利用した e-mail でも発行されています。印刷版と同じ情報が毎月あなたのメールアドレスに届きます。さらに e-mail なら、関連ホームページを見たり、そのまま返事することで観察会の申し込みができたり、とっても便利です。パソコンで e-mail をお使いの方ならどなたでも無料で申し込みができます。まずは高原の自然館ホームページをご覧ください。

高原の自然館ホームページからは、苧尾電波塔（紙版）の pdf ファイルをそのままダウンロードできます。郵送している紙版に比べ、鮮やかなカラー写真を見ることができ、ダウンロードしたファイルはご家庭のプリンタを使って印刷することもできます。そこで、高原の自然館では紙版（郵送）からインターネット版への購読移行をお願いしています。今後、紙版の郵送が不要な方は、高原の自然館までご連絡ください。みなさまのご協力をお願いいたします。

【高原の自然館】<http://shizenkan.info/>

紅葉の季節は瞬く間に過ぎ、とうとう芸北の冬がやってきました。去年は大晦日まで降らなかったのですが、今年はまだ除雪車が出動するほどの雪です。毎日毎日雪かきをして、毎日毎日雪が積もる。それを「非生産的」とか「無駄な労働」と言ってしまうのは簡単なことですが、この冬の生活があるからこそ生まれた味覚や文化があります。冬を知ると芸北はもっとおもしろくなりますよ。

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先（ご意見・ご感想もお待ちしております）

高原の自然館（こうげんのしぜんかん）

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 119-1
tel. & fax : 0826-36-2008
<http://shizenkan.info/> staff@shizenkan.info
冬季連絡先 : 0826-35-0070（芸北文化ホール）